

岐阜工業高等専門学校 機械工学科 同窓会報

創刊号

機 楽

メールマガジン

TOSI・AOKI

目 次

P. . . . 2	目 次
P. . . . 3	『機巢』メールマガジン発刊挨拶 機巢会 会長 中野廣幸
P. . . . 4-5	機械工学科の現状について 機械工学科長 教授 山田 実
P. . . . 6	卒業生からのたより 高専を卒業して 41期生 川瀬 遼
P. . . . 7	卒業生からのたより . 2 進学組 6期生 廣瀬満浩
P. . . . 8	機巢会35周年同窓会のご案内 大野武久先生を悼む 2期生 岩井静克
P. . . . 9-10	第18期活動計画・事業計画予算・役員体制
P. . . . 11	表紙デザインの紹介 編集後記

機巢会とは

機巢会は岐阜高専機械工学科の同窓会です。本会は会員相互の親睦と向上を図り、岐阜高専機械工学科の発展に資する事を目的としています。

機巢会規約

本会の会員

正会員 : 岐阜高専機械工学科卒業生および岐阜高専機械工学科に在籍したもので理事会の承認を受けた者

特別会員 : 岐阜高専機械工学科の現教官・旧教官および理事会で承認を受けた者

『機巢』メールマガジン発刊挨拶



機巢会会長 中野 廣幸

この度機巢会の機関紙がメールマガジンとして創刊されました。我らが岐阜高専の創立 50 周年を迎え、初期の卒業生も企業での活躍を終え、別の角度からの社会貢献を始める時期となってきております。これでやっと世代のフルラインアップが揃ったと言えましょう。

4 期生である私が、岐阜高専に入学した時に、最上級生の 5 年生がいなかったことに違和感を持ったことを覚えております。この感覚はその後の企業での生活の中でも続き、自分たちがパイオニアなのだという感覚と同時に、先輩のいない一抹の心細さを持ち続けて参りました。この感覚は他の高専を卒業した仲間にもあると見え、卒業した高専は違えども、高専卒と聞くとお互いに、妙に親近感を感じたものでした。

しかし、冒頭でも申し上げましたとおり創立 50 年が過ぎ、今まさに世代間のネットワークのフルラインアップが揃いました。岐阜高専の校庭にあります木々も、私が学んだ当時には小さな若木であったものが、今はすでに堂々とした大木になっています。これらの木々の成長は、すなわち岐阜高専の卒業生の人脈という財産の成長を表すものに他なりません。

この時期に『機巢』メールマガジンが創刊することには大きな意味があります。つまり、世代を超えて“岐阜高専機巢会”というキーワードで一つに繋がるといふことなのです。このメールマガジンを生かし、情報を分かち合うことによって、機巢会会員のヒューマンネットワークを益々密なものにし、会員相互の知恵の共有、新しいビジネスの創造、チャレンジ機会の開発を実現して、産業経済の発展、社会への貢献に役立てていきたいと考えます。

本年、3 月 5 日土曜日に機巢会第 35 周年の同窓会がグランベール岐山で開催されます。また若鮎会 50 周年記念行事の企画活動も現在始まっています。これらの活動や、今回創刊されました『機巢』メールマガジンを通じて、機巢会会員相互に役に立つ情報を、タイムリーに発信して参りますので、何卒ご期待いただきますようお願いいたします。

機械工学科の現状について

機械工学科長 山田実

岐阜高専は設立から50年以上が過ぎ、次の新しい時代に向けて動き出しています。機械工学科も卒業生の方が在学されていた頃とは変っているところもあり、逆に変わらないところもあるかもしれません。そこで、機巢会メールマガジンの創刊にあたり、機械工学科の現状について簡単に紹介したいと思います。

【学科概要】

機械工学科は現在でも1クラス定員40名で募集をしています。女子学生は1年に2名、3年に2名、5年に2名在籍しています。

現在、機械工学科では表1に示すような専門科目を教えています。第4学年の創生工学実習では1年かけてコンプレッサーを製作し、設計・製図から材料の選定、加工・組立までの全生産プロセスを体験しています。

表1 専門科目（平成24年度以降入学生）

第1学年	ものづくり入門
第2学年	機械工作法Ⅰ、機械工作法Ⅱ、コンピュータリテラシー、機械設計製図Ⅰ、機械工学実習Ⅰ
第3学年	応用物理Ⅰ、工業力学、機構学、材料力学Ⅰ、材料学Ⅰ、計測工学、機械設計法Ⅰ、情報処理Ⅱ、機械設計製図Ⅱ、機械工学実験Ⅰ、機械工学実Ⅱ
第4学年	応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ、応用数学Ⅲ、応用物理Ⅱ、機械力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、流体力学Ⅰ、熱力学Ⅰ、伝熱工学Ⅰ、材料学Ⅱ、塑性加工学Ⅰ、塑性加工学Ⅱ、制御工学Ⅰ、機械設計法Ⅱ、数値計算法Ⅰ、電気工学概論、機械工学実験Ⅱ、創生工学実習、工業英語、機械工学基礎研究
第5学年	応用物理Ⅲ、機械力学Ⅱ、材料力学Ⅲ、流体力学Ⅱ、流体力学Ⅲ、熱力学Ⅱ、エネルギー工学、材料学Ⅲ、生産工学、制御工学Ⅱ、電子回路、工学解析、技術者倫理、弾性力学、塑性力学、数値計算法Ⅱ、伝熱工学Ⅱ、流体機械、エネルギーと環境、システム工学、メカトロニクス、ロボット工学、卒業研究

機械工学科の教員は表2に示す11名から構成されています。特徴として高専関係の出身者が多いことが挙げられます。なお、河野先生は豊田高専に2年間の人事交流に行かれています。この他にもOB教員として河村隆雄先生、奥川雅之先生、機械工学科OBとして1期生桑原喜代和さんが非常勤講師をされています。なお来年度からは桑原さんに代わり6期生廣瀬満浩さんが担当されます。

表2 教員

職名	氏名	主な担当科目	備考
教授	加藤 浩三	塑性加工学	
教授	小栗 久和	材料力学	13期生
教授	石丸 和博	熱力学	18期生
教授	片峯 英次	機械設計法	北九州高専卒
教授	山田 実	制御工学	24期生
准教授	山本 高久	伝熱工学	28期生
准教授	中谷 淳	流体力学	
准教授	河野 託也	応用物理	電子制御工学科卒
准教授	本塚 智	材料学	福井高専卒
講師	宮藤 義孝	機械工学実習	元富山・沖縄高専技官
助教	高橋 憲吾	機械設計製図	八戸高専卒

【進路】

卒業後の進路は就職と大学編入学などの進学とに大きく2つに分かれます。割合としては就職が6割前後と、若干就職が多くなっています。

図1に最近の求人情数を示します。平成20年に起きたリーマンショックの影響を受けてその次の年からの求人情数が大きく落ち込みましたが、現在は回復に向かっていきます。就職先としては依然として、自動車、飛行機、鉄道などの運輸機械、重工関係、工作機械、電力・ガス関係などが根強いですが、食品・薬品関係の製造部門へ就職する学生も増えています。

進学先は全国のほとんどの国立大学が編入学を受け入れていることもあり、東海地域の大学を中心として全国の国立大学に受験しています。豊橋・長岡両技科大をはじめ岐阜大学、三重大学、静岡大学、千葉大学、岡山大学などでは推薦入試もあります。また、本科5年を修了すると更に2年間本校で学ぶ専攻科が平成7年に設置されましたので、専攻科に進学し卒業研究の後、2年間研究を続ける学生も数名います。

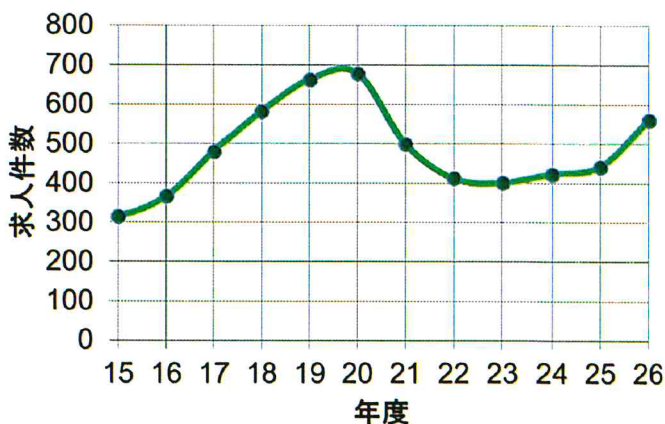


図1 求人情数

【機械工学科棟】

機械工学科棟は平成25年度前期に改修工事があり新しい建物に生まれ変わりました。教員室と実験室が隣り合うこれまでの配置から、コモンスペースと呼ばれる、学生が自由に使える空間内に教員室を集約する配置となりました。機械工学科棟南にはウッドデッキが設けられ、天気の良い日にはそこでお弁当を食べる学生の姿が見られます(図2)。製図室は機械デザインラボという名称になり、ひとつの机の上に手製図用のドラフターとCAD/CAE用のパソコンを置くという他高専にはない特色ある部屋となっています(図3)。



図2 機械工学科棟を南から望む



図3 機械デザインラボ

最後に、卒業生の方には高専祭、高専大会応援、技術相談、リクルートでの訪問など機会がありましたら気軽に訪ねていただきますようお願いいたします。

卒業生からのたより

高専を卒業して

H20年3月度卒業生 川瀬 遼

H20年4月、私は岐阜高専 機械工学科を卒業して三菱重工業株式会社 名古屋誘導推進システム製作所に入社しました。当所では防衛・宇宙・航空エンジン事業を手掛けており、H26年10月には民間航空機用エンジン事業が独立、三菱重工航空エンジン株式会社として発足しました。当社に係る最も旬な話題としてはH27年11月11日のMRJ初飛行が挙げられ、本機体に搭載されているPW1200Gエンジンの部品製造・組立に携わっております。

私は入社後8年間、民間航空機エンジン部品の製造部門にて技術系事務スタッフとして業務を行って来ました。

技術系事務スタッフと言うと響きは良いですが、簡単に言うと現場の生産を止めないための「何でも屋」です。ある時は作業性向上のために工法の提案をし、ある時は設備故障に係る修理手続きや工具・備品手配に係るフォロー等を行い、ある時は将来の生産レイアウト検討、設備更新計画を行うというように多種多様な業務を行っております。その中でも最もやりがいのある業務が、新規設備の導入業務です。製造業であるが故、新たな加工技術の導入や老朽化設備の更新を要する場合には、

新規設備の検討・導入が必要となります。エンジン部品の要求品質を基に製造に必要な技術・仕様を検討し、設備メーカーと仕様及びコストの調整を行うことからスタートして、作業性を加味した設備導入レイアウトの検討、新規設備導入の必要性に関する説明資料作成及び社内上層部への説明、設備メーカーに対する要求仕様・検査方案書類の作成、発注手続き、設備メーカー内での立会検査、設置後の領収検査まで一連の流れを主担当として実施できるため、導入後スムーズに量産へ繋がり、現場作業の方々を使い勝手を満足して貰えると「よしっ！今回も上手くいった！」と飛び上がりたくなるほど充実感を得られます。

また、H27年度は上記のような実担当としての業務だけでなく、新入社員の教育担当も任されました。私は教育をするにあたり、次のような2点を大切にしてきました。1点目は「やり方ではなく考え方を学

ばせること」です。これは自身の経験ですが、指導受けした頃には「やり方」ベースの教育が多く、状況に合わせた判断や対応ができるまで長期間要しました。そのため、新入社員に同じ轍を踏ませたくないと考え、意識して教育してきました。2点目は「フレンドリーな関係」です。相談し易い人が最も近くに

いることは、円滑に業務を遂行できるだけでなく、気持ちに余裕が生まれるため、新しいこともどんどん吸収していけるだろうと考え、意識してきました。結果、新入社員が自分で判断して最終確認として私に相談してくるようになり、方針として間違っていないと確信しました。

今後は部下を使い業務をこなしていく場面が多くなっていくため、管理職の業務・考え方を学ぶ必要があります。所属部署の上司だけでなく、他部門の先輩方からあるべき姿を学んでいき、最終的には自分の色を出していけるよう努力していきます。

以上



アメリカに出張した時（右側が筆者）



卒業生からのたより .2

進学組

6 期生（昭和 48 年 3 月卒業） 廣瀬満浩

昨年久しぶりに高専祭に行き、何かどんくさかった我々の時代と変わって、田舎にありながら洗練された学生達や理系女を見て、時代の変化を感じました。

私事で恐縮ですが、4 年生の終わり頃、大学に行きたくなりました。当時編入可能な大学は 2 校しかなく、編入できる成績でもありませんでした。1 年生からなら学科を変えようと電子を受け、見事落ちました。（メカトロニクスエンジニアになりたかった）

1 年後名大と名工大だけに願書を出し、幸い名大に入れました。

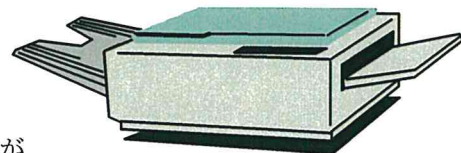
さぼりがちの学生でしたが、高専生が弱いと言われた文学や英語だけは、細々とやっていました。ブラザー工業に入社し、エンジニアが

希望する設計で、社会人が始まりました。その後、米国でサービス、帰国後、品証、サービス、営業、企画と続き、香港と中国勤務を経て、人事、そして子会社で定年となりました。

人事に戻り 1 年半ごろ経った時、高専の同級生に自動車部品製造のギフ加藤製作所を紹介して頂き、人材育成の仕事をしています。（同級生はありがたいものです）

社会に出ると色々な所で高専生に会います。そして高専と聞いて、異なる高専でも母校の人の様に親しみがわいてくるのは、私だけではないと思います。きっと多感な時代の 5 年間を一緒に過ごした為でしょうね。これも社会に出て分かる高専の良さです。

この様に中途半端で、「専門が無いのが廣瀬君だな」と言われたりもしました。理系、文系、その両者を繋ぐサービスを担当し、金銭面はともかく、多様な経験をしてライフ面では豊かだったと感じています。これも「1 週間に必ず 1 冊の本を読みなさい。人生が変わるから」と高専の授業で教えて貰ったおかげで、今も感謝をしています。このたびはこの様な機会を頂き、ありがとうございました。



クラス同窓会を開催して、親睦を深めよう！！

機巢会は、クラス同窓会の援助をしています！

同窓生の親睦を深める「クラス同窓会」を活発にするため、機巢会は会費援助をはじめています。

金額：参加者 1 名あたり 1,000 円

援助の条件：

- ① クラスメンバー全員（可能な限り）に案内を出して行われた同窓会
- ② 最低参加人員は 10 名
- ③ 開催時の写真や参加者名簿の提出（機関誌メールマガジンに掲載）
- ④ 2 回目以降の補助は、前回の補助から 3 年以上経過後
- ⑤ 申請は機巢会のクラスの幹事または幹事より委託された者

どうぞご利用ください！

岐阜高専・機巢会 35 周年同窓会のご案内

平成 25 年岐阜高専は創立 50 周年を盛大に祝うことができました。そして来年若鮎会が発足 50 周年を迎えます。そして我が機械工学科の同窓会である「機巢会」も 35 周年を迎えました。これを機にすべての機械工学科卒業生が一堂に集い、旧交を温めるとともに今後益々同窓会活動を活発化させていきたいと思っております。

下記の通り同窓会を開催することになりましたので、ご案内申し上げます。

機巢会会長 中野廣幸(4 期)

記

日時 平成 28 年 3 月 5 日(土) 午後 4 時から (3 時間程度)
場所 ホテルグランヴェール岐山 岐阜市柳ヶ瀬通 6-14 TEL 058-263-7111
会費 5,000 円
内容 第一部 会長挨拶
橋浦先生のご講演
機械工学科の現況報告 など
第二部 懇親会

当日参加も受け付けますので、都合のつく方は是非ご参加をお待ちしています。

前日までの連絡先 機巢会事務局 TEL 058-320-1334 Email ishimaru@gifu-nct.ac.jp

大野武久先生を悼む

年の瀬、悲しい知らせを聞くこととなった。同級生であり、卒業生で母校の教壇に立ち、わが機巢会の設立当初から事務局局長として取りまとめに奔走された大野武久先生が 67 歳の若さである世へと旅立たれてしまった。言葉にならない寂しさである。先生があつてこそ今の若鮎会や機巢会があるといつても過言ではない。特に同級生である 2 期生の我々は彼に頼り切ってしまっていたと反省している。会報「機巢」の編集後記をあらためて読み返してみると、事務局局長として如何に同窓会運営に情熱を注いでいたかが窺われる。優秀でまじめで、手を抜かない彼の性格がここにも感じられた。残された我々がしっかりと彼の遺志を受け継いで機巢会、若鮎会を発展させていく事が彼への恩返しと思つて、微力ながら私も頑張りたい。棺の傍らに置かれていたトランペット、今彼は天国のどこかで、好きなトランペットを吹いているのだろうか。

合掌

機巢会会計 岩井静克(2 期生)



第18期の活動計画

- ◇ 機巢会35周年同窓会の開催
- ◇ 現役学生への支援
 - ・ 高専祭助成
 - ・ 留学支援
 - ・ 機械設計技術者試験支援
- ◇ 機巢会活動強化、PR
 - ・ クラス同窓会補助
 - ・ 機関誌（メールマガジン）による活動情報公開
- ◇ 若鮎会50周年（平成29年）記念事業への参画
特命委員として、機巢会より
岩井静克(2) 青木健(3) 太田哲也(6)の3名が参加

平成27年12月19日改訂

第18期(2015.4.1～2017.3.31)事業計画予算

収入の部

費 目	金 額	備 考
前期繰越金	12,404,028	
平成26年度会費	350,000	
平成27年度会費	350,000	
利 息	4,000	
合計	13,108,028	

支出の部

費 目	金 額	備 考
同窓会補助	200,000	
高専祭助成(27, 28年度)	100,000	
留学支援	400,000	
機関誌等の整備	400,000	27.12.19上乘せ
幹事会会議費	100,000	
事務費	20,000	
機械工学科広報費	200,000	27.9.1追加
機械設計技術者試験支援	320,000	27.9.1追加
35周年同窓会開催費	1,000,000	27.9.26追加
(支出計)	2,740,000	
次期繰越金	10,368,028	
合 計	13,108,028	

その他

1. 会計監査2名のうち、1名は必ず学外の会員にする。
18期は森清高（2期生）さんをお願いする。
2. 郵便局普通預金残高が多いので、取扱いを見直す。
3. 会計年度は、毎年4月1日から翌年の3月31日と決められているので
年度毎会計監査を受けることを徹底する。
4. 第18期の役員体制を確立する。

下記名簿記載

5. 若鮎会50周年記念事業準備金の確保
6. 追記 3/23の会合以降、機械工学科より要請があり、8/8のオープンキャンパスで
機械工学科をPRするための費用として広報費を支援してほしいとのことでした。
役員の詳細を得ましたので、予備費を充当することとしました。
7. 機巢会35周年同窓会の開催については、理事を含めた役員会での検討が
必要です。時期、場所、費用等の検討
8. 平成27年9月1日開催の役員・理事・幹事会議にて予算見直しを行い、追加見直しを決定
議事録参照
9. 同窓会開催についても、議事録参照のこと。
10. 「各期同窓会への援助について」（基準書）を見直ししたので、変更して発行する。
平成27年9月1日付 機巢会会長 中野廣幸 で発行する。
11. 平成27年9月26日開催の役員会にて、35周年同窓会開催のための費用として
1,000,000円を予算に計上した。
12. 平成27年12月19日開催の役員会にて、担当の太田さんの報告を受け、実施に向け
予算金額を10万円上乗せすることを承認した。

機巢会 第18期(2015.4.1～2017.3.31)の役員体制

会長	M04	中野 広幸	副会長	M01	桑原喜代和			
会計	M02	岩井 静克	会計監査	M02	森 清高	M18	石丸 和博	
理事	M01	井坂 一男	M01	三口 栄一	M02	長谷川 実	M03	青木 健
	M06	太田 哲也	M15	中尾 賢治				
事務局長	M28	山本 高久						

機巢会クラス幹事

M01	三口 栄一	M11	亀谷 茂	M21	脇阪 剛史	M31	細江 良樹	M41	吉田 祐
M02	岩井 静克	M12	外部 雅彦	M22	大久保雅彦	M32	松尾 信裕	M42	國枝 享仁
M03	青木 健	M13	小栗 久和	M23	河合 久和	M33	伊藤 友裕	M43	鹿取 大祐
M04	中野 広幸	M14	今原 一誠	M24	山田 実	M34	武市 敏明	M44	大矢 武明
M05	武仲 晃治	M15	中尾 賢治	M25	須藤 純司	M35	井納 毅	M45	田中 貴大
M06	太田 哲也	M16	浅野 裕昭	M26	長谷川 豊満	M36	荒井 一将	M46	佐藤 哲也
M07	伊藤 雅美	M17	宇佐美 公仁	M27	桐山 義幸	M37	伊藤 祐貴	M47	黒田 貢模
M08	犬飼 宏好	M18	石丸 和博	M28	山本 高久	M38	筒井 康亘	M48	野寺 祐生
M09	安藤 兼彦	M19	神田 直樹	M29	崎田 吉範	M39	田中 亨	M49	
M10	白木 貞光	M20	新田 善信	M30	小林 義光	M40	内田 寿	M50	

暫定幹事

表紙のデザイン

画家 青木年広 日展会友 一水会会員
岐阜市在住 透明感あふれる清流の絵を得意とする洋画家。



機会工学科の「M」をイメージして
躍動感・豊かな広がりを
表現してもらいました

<http://www5e.biglobe.ne.jp/~tosiaoki/>

編集後記

『機巢』メールマガジンを発刊するに当たって、経費をかけず出来るだけ手作りのものにしたと考えています。卒業生以外の方に読んでいただいても、面白くて興味深い内容になるよう皆様からの原稿投稿を期待しております。近況・旅行記・体験談・趣味・身近なニュースをお寄せください。多くの方からの原稿をお待ちしております。メールマガジンではありますが、郵送を希望される方にはプリントして送付することも考えています。ご希望の方は申し出ください。

編集者：6M 太田哲也「卒業後40年間母校と関わりがない生活でしたが、同窓会活動に参加することになりメールマガジンの企画編集に携わることになりました。楽しく読んでもらえる機関誌にしたいです。」

8M 犬飼宏好「最初はどうか不安でしたが、編集者メンバーのチームワークとレスポンスの良さでメルマガ創刊号発行となりました。今後も多くの機巢会メンバーに愛されるメルマガを作っていきたいと思っています。」

15M 中尾賢治「ひょんな縁から同窓会活動に係わって6年が過ぎました。学生時代は迷惑ばかり掛けましたので恩返ししないと！」

24M 山田 実「機巢会のホームページを担当しています。少しずつ更新していきますので、たまに訪れてください。」

33M 伊藤友裕「同窓会活動には若手が少ないです。優しい諸先輩方と一緒に同窓生ネットワークを築きましょう。

気になった方はお気軽に声かけ下さい！！」

発行日／2016年2月15日

責任者／中野廣幸

発行／岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巢会」編集室

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番地2

TEL 058-320-1343 FAX 058-320-1349

<http://www.gifu-nct.ac.jp/mecha/main/ob/ob.html>